

平成 22 年 1 月作成

長野県薬局実務実習モデルスケジュール Ver.2

(社) 長野県薬剤師会

薬局実務実習推進委員会

はじめに

6年制薬学生の長期実務実習開始を、平成22年5月17日にひかえ、長野県における受入体制整備も残すところあと1年となった。

薬局実務実習推進委員会では、平成18年より第1回実務実習のためのアドバンスワークショップ in 長野のプロダクトをもとに作成された「①支部全体で受入れる②地域特性を生かした地域密着型の参加型実習③基本の調剤・接遇などを段階的にスキルアップ④薬局外の薬剤師活動を体験する⑤体験より薬剤師倫理や生涯学習の必要性を学ぶ」という基本方針のもとに県及び各支部での受入体制整備を進めてきた。しかし、現在受入薬局数は、143薬局と県内全体の薬局数の20%にも満たず、さらに支部別にみても受入施設の割合が20%未満の支部は、14支部中8支部にもものぼっており、支部全体で受入れる体制整備に格差が生じている。

これらの現状をもとに委員会では、平成20年8月に2週間実習受入を経験した96薬局を対象とした「薬学生受入のためのアンケート」を実施し、93薬局から今後の問題点及び要望などの回答を得た。また、9月には「平成20年度薬学生受入のための支部交流会」を開催し、エリア間の協力のもとに支部全体で学生を受入れるにはどうすればよいかについて討議した。それらの結果については、平成20年11月発行の長野県薬誌りんどう400号で報告したが、さらに委員会では、受入開始までの1年間で解決する問題点の抽出を行い、対策及びアクションプランを平成21年2月15日に開催された第44回長野県薬剤師会学術大会で発表した。

今回、特に要望が多かったモデルスケジュールの作成について、3月8日に開催された「第3回実務実習のためのアドバンスワークショップ in 長野」においてワークショップ修了者より参加を募り、5グループに分かれて討議を行った。さらに4月12日には、まとめ会を開催し、それらのプロダクトをもとに「長野県薬局実務実習モデルスケジュール Ver. 1」を作成するに至った。

今後、この県内指導薬剤師の要望及び総意により、参加者の英知を注いで作成されたモデルスケジュールをもとにして、各支部における受入体制整備の推進、エリア間の協力体制の構築、またはコアカリキュラムの実践的方略の検討などをより具体化していき、さらにモデルスケジュールのバージョンアップを重ねたい。

平成22年度の6年制1期生の長野県への薬局実務実習希望者数は、現在11大学から47名となっている。まずは、この学生たちに「長野県で実習して良かった！」「長野県で薬剤師として働きたい！」と思ってもらえるようなすばらしい体験ができる準備をしたい。実務実習は、我々が学生と共に学び、成長していける良い機会である。将来の有能な薬剤師を育てることで我々の未来も切り開かれていくと考えられる。

是非とも、みなさんの協力をお願いしたい。

平成21年5月

(社) 長野県薬剤師会

薬局実務実習推進委員会

1. モデルスケジュールの概要

- ・このモデルスケジュールは、「指導薬剤師・学生がお互いに11週のような実習を行うのかイメージでき、かつ実践しやすい実務実習モデル・コアカリキュラムを網羅した形にする」ことを目標に作成されている。
- ・実習期間11週を4期に分け、『1W-4W-4W-2W』を基本骨格とする。
- ・1週目「導入」、2～5週目「知る・見る」、6～9週「する（実際に行う）」、10～11週「深める（総合）」という形の期間の目標を定め、**段階的にスキルアップ**をする。
- ・かかりつけ薬剤師として、ひとりの患者さんに少なくとも3回は服薬指導を行えるような構成にする。
- ・なるべく早期から**参加型・体験型の実習**を組み入れる。
- ・学生へアンケートをプレ（実習前）・中間（6週）・ポスト（11週）に行い、希望・要望及びスケジュール・指導者評価などを反映させる。
- ・多くの項目をなるべく早期から始め、ほとんどの項目が5週目までに一通り終了するように組む。さらに、6週目からは、その実習内容や到達レベルを見直し、繰り返しながら服薬指導実践及びカウンター実習を中心に患者及び顧客に接するコミュニケーションに重点を置いた実習を行う。
- ・後発医薬品及びお薬手帳に関する項目も実施する。
- ・幅広い薬剤師の仕事や分野を体験するために、**薬局外研修**を多く取り入れる。
- ・学生にぜひ体験してほしい実習を「**(0) 長野県わくわく実習**」として組み入れる。

2. (0) 長野県わくわく実習

- ・待合室から見てみよう・・・1週目及び6週目に患者さんとともに待合室から薬局を観察し、薬剤師の仕事を考える。
- ・服薬実習体験・・・実習期間中、学生自ら偽薬を服用し、コンプライアンスを保つことのむずかしさを体験する。
- ・患者アンケートの実施・・・実習期間中、待合室で待っている患者さんにアンケートを行い薬剤師はどうあるべきかを学ぶ。
- ・研究課題・・・実習開始時に疾病等の研究課題を決め、実習期間を通して調査・研究し、発表する。
- ・プレゼンテーション・・・支部及びエリア単位で6週に中間プレゼンテーション、11週に最終プレゼンテーションを開催する。研究課題・患者アンケート・服薬実習体験などについてのプレゼンテーションを行う。
- ・ハナさんから学ぼう！・・・「ハナさんのかかりつけ薬局になってみよう！」体験プログラムの実施（第1回実務実習のためのアドバンスワークショップ in 長野報告書）、5週までは、ハナさんという仮想の患者を設定し、「かかりつけ薬剤師になるためには・・・」ということを考えていく。6週目以降は、承諾の得られたひとりの患者さんに対して、かかりつけ薬剤師として関わってみる。

- ・インシデント収集・分析・・・実習初期より自分の行った調剤間違いなどのインシデントを収集・分析し、調剤過誤に対する対策や意識の重要性を感じる。
- ・健康食品・季節商品・禁煙などのディスプレイ及びポップの作成
- ・地区勉強会や生涯教育講座への参加
- ・他薬局でのOTC購入体験
- ・他薬局を見てみよう・・・協力薬局等で業務内容の違い、患者層の違いを体験する。
- ・卸・製薬会社・検査センターなどの見学・・・薬剤師の職域の広さを学ぶ。

3. 長野県薬局実務実習モデルスケジュールVer.2

作成したスケジュールおよび方略を次ページに示す。

今回のモデルスケジュールにもとづいた具体的な実践的方略については、各エリア及び支部により状況が異なるため、今後開催を予定している「薬学生のための支部交流会」及び「第4回実務実習のためのアドバンスワークショップin長野」等において検討し、モデルスケジュールのバージョンアップを行う。

平成21年10月にモデルスケジュールを一部修正、また「長野県わくわく実習」については、モデル方略を作成し、平成21年10月11日滋賀県で開催された第42回日本薬剤師会学術大会において発表し、Ver.1.1とした。

平成22年1月現在、さらにモデルスケジュールを一部修正、1月11日に開催された平成21年度第3回指導薬剤師スキルアップ研修会の資料として、第3回実務実習のためのアドバンスワークショップin長野第2部のプロダクトより「〈4〉薬局カウンターで学ぶ」モデル方略を作成、追加し、Ver.2にバージョンアップした。

参考資料：

- ・第1回実務実習のためのアドバンスワークショップin長野報告書(平成18年7月)
- ・第2回実務実習のためのアドバンスワークショップin長野報告書(平成20年11月)
- ・小林潤：薬学生受入のための支部交流会「支部を超えたワクワク実習を考えよう!」、長野県薬誌りんどう第400号、8-9、平成20.11.10.
- ・下井田めぐみ:薬学生受入のためのアンケート結果報告、長野県薬誌りんどう第400号、10-12、平成20.11.10.
- ・須藤浩ら：長野県における薬局実務実習受入体制整備に関する問題点と対策～平成20年度薬学生受入れのためのアンケート及び支部交流会の結果から～、第44回長野県薬剤師会学術大会プログラム・講演要旨集、8-9、平成21.2.15.
- ・須藤浩ら：長野県薬局実務実習モデルスケジュールの作成～第3回実務実習のためのアドバンスワークショップin長野の成果より～、第42回日本薬剤師会学術大会講演要旨集、320、平成21年10月.

長野県薬局実務実習モデルスケジュールVer.2 (平成22年1月作成)

【モデルスケジュールの見方】

1. 実習期間を示している項目：(0)長野県わくわく実習・(3)薬局調剤を実践するP321服薬指導入門、P322服薬指導実践・(4)P406～407カウンター実習・(6)薬局業務を総合的に学ぶ
2. 実習期間を示していない項目：「知る・見る」「する」の各々4週間の中で調整して行う
3. 実習開始週を示す項目：上記以外の項目、開始週から始め、期間を通して継続して行う

実習前	導入(1w)	知る・見る				する				深める	
		2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w
		(0)長野県わくわく実習(ぜひ体験してほしい実習)									
		待合室から見てみよう(初期) 患者の目線で薬局を見つめてみよう				待合室から見てみよう(中間) 薬剤師は、薬局はどう見えるのかな、自分は？				実習を終了して	
アンケート(プレ)		実務実習に望むこと、やってみたいこと、どんな薬剤師になりたい？				アンケート(中間) 前半を終えて、後半に望むことやりたいこと				アンケート(ポスト)	
		服薬体験実習(実際に薬剤(偽薬)を服用してみよう) コンプライアンスは保てるかな？									
		患者アンケート(患者さんにアンケートをしてみよう)				この薬局を選んだ理由は？薬剤師に望むのは？・・・まずは患者さんと会話してみよう					
		研修課題(疾病等)を決める(テーマを持って実習をしてみよう)				どんなことに着眼したいかな 11週間の課題です					
		インシデント事例集作成(実習中に自分の調剤のヒヤリハット・インシデントを収集・分析してみよう) 見つめることで解決できる				中間プレゼンテーション (服薬体験実習・患者アンケート・前半外部施設等)				最終プレゼンテーション (インシデント収集・研修課題・後半外部施設・協力薬局等)	

実習前	導入(1w)	知る・見る				する				深める	
		2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w
		(3)薬局調剤を実践する									
	P301(2)	処方箋調剤の流れ 説明・見学									
	P302(2)	処方箋事項・受付時の対応・初回質問票 説明・実習									
	P303(1)	新患情報 説明									
		P304(3)	処方箋受付時の対応 実習(後発品、お薬手帳)			P304(4)	処方箋受付時の対応 実習(後発品、お薬手帳)				
		P305(1)	処方箋記載 実習			P305(1)	処方せん妥当性判断 実習				
		P306(1)	薬歴簿 実習			P306(1)	薬歴簿 実習				
			P307(1)	疑義照会 説明・見学							
				P308(0.5)	疑義照会事例シミュレート		ロールプレイ		P308(0.5)	疑義照会事例シミュレート	
	P309(1)	薬袋記載事項 説明・実習									
	P310(10)	計数調剤 実習・演習									
	P311(1)	一包化調剤 説明・実習									
	P312(1)	錠剤粉碎 説明・実習									
	P313(5)	計量調剤 説明・実習									
	P314(1)	毒薬・劇薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬など調剤 実習									
				P315(3)	監査 説明・実習						
			P316(1)	患者情報・伝達情報の把握 説明・演習							
			P317(5)	薬歴管理意義・記載事項・保管・管理など 説明・演習							
		P318(1)	妊婦・小児・高齢者への服薬指導 説明								
		P319(2)	眼軟膏・坐剤・吸入剤の取扱い 説明・実習								
		P320(2)	自己注射の調剤・取扱説明 説明・演習								
				P321(12)	服薬指導入門 見学・実習						
				P322(40)	服薬指導実践 実習						

実習前	導入(1w)	知る・見る				する				深める	
		2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w
			P323(1) 調剤録記入事項・保管 説明 P324(0.5) 調剤後処方箋記入事項 説明 P325(0.5) 処方箋保管・管理 説明 P326(3) 調剤報酬算定・レセプト作成 説明・演習 P327(1) 薬剤師技術評価 説明・演習 (レセプト) * 月末一回目 P328(1) 医療事故訴訟・調剤過誤事例 討議				P326(2) 調剤報酬算定・レセプト作成 説明・演習 P327(1) 薬剤師技術評価 説明・演習 (レセプト) * 月二回目				
	P329(2) 名称・外観類似薬 説明・実習 P330(1) 高リスク医薬品 説明・実習 P331(0.5) 調剤過誤防止のための工夫事項 説明				P331(0.5) 調剤過誤防止のための工夫事項 実習 P332(1) 調剤過誤を起こすポイント・過誤対応策 討議 P333(1) インシデント・アクシデント報告記載 講義・演習						
		(4)薬局カウンターで学ぶ									
	P401(1) かかりつけ薬局・薬剤師の役割 討議 遭遇					P401(0.5) かかりつけ薬局				P401(0.5) かかりつけ薬局	
			P402(2) 疾病の予防、健康管理のアドバイス 演習 P403(2) 医師への受診勧告 演習 P404(5) セルフメディケーション(選択・供給) 演習 P405(2) 顧客からモニタリング 副作用、相互作用への対応策 演習								
						P406(25) カウンター実習(顧客対応実習) 実習・演習 P407(25) カウンター実習(健康管理実習) 実習・演習					

実習前	導入(1w)	知る・見る				する				深める	
		2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w
		(5)地域で活躍する薬剤師 P501(2) 訪問薬剤管理指導業務・医療廃棄物取扱 説明・見学 P502(1) 薬剤師が在宅に関わる意義 討議 P503(1) 病院薬剤師との連携 説明・討議 P505(2) 居宅介護、介護専門員などの医療福祉活動の把握 説明・演習				P504(1) 休日・夜間診療と薬剤師の役割 説明・休日急病診療所見学 P506(1) 緊急災害時の薬局・薬剤師の役割 説明 P507(2) 防災センター・避難所・備蓄センター 見学 P508(2) 学校薬剤師の役割 説明・学校見学 P509(2) 地域住民に対する医薬品の適正使用 説明・保健所見学 P510(1) 麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止運動 説明 P511(1) 日用品に含まれる化学物質の危険性と薬剤師の役割 説明・演習 P512(1) 誤飲・誤食による中毒 説明・演習 P513(1) 消毒 説明・演習 P514(1) 話題性のある薬物・健康問題 説明・演習 P515(4) p511～514演習または実習					
		(6)薬局業務を総合的に学ぶ								P601(25) 薬局業務実習 P602(2) 薬剤師の貢献を感じる 討議	

長野県わくわく実習（ぜひ体験してほしい実習）モデル方略

平成21年9月作成

時期	項目	学習方法	場所	人的資源	物的資源	時間	患者、顧客との関わり	備考
実習前	プレアンケート	薬局とは？薬剤師とは？ (アンケート作成)	大学 自宅	指導薬剤師	プレアンケート用紙 (薬剤師会で用意)	20分		実務実習に望むこと、やってみたいこと、薬剤師のイメージ、薬局のイメージとは？
1週	待合室から見てみよう (初期)	待合室に患者と一緒に座り、薬剤師側から見た薬局と患者目線から見た薬局の違い、患者の気持ちを感じる。 (レポート提出)	薬局	指導薬剤師		1時間 (ピーク時)	患者と一緒に座り、目線・気持ちを感じる。	薬局とはどんなところか感じる。患者目線で見てみよう！
1～5週	服薬体験実習	学生自ら偽薬を服用し、コンプライアンスを保つ難しさを体験する。初日～5Wまで毎日服用する。 (6Wのプレゼンで結果発表)	薬局	指導薬剤師	整腸剤3T分3、ビタミン剤2g分2など、基本「錠剤＋散剤・2用法」とする。	10分×30日 ＝6時間	コンプライアンスを保つことの難しさを体験し、調剤業務・服薬指導に生かす。	学生には、初日に説明し、服用の同意が得られた時のみ行う。
1～5週	患者アンケート	待合室で待っている患者にアンケートを行い、薬剤師はどうあるべきか感じる。 (6Wのプレゼンで集計結果発表)	薬局	患者	患者アンケート用紙 (薬剤師会で用意、共通のものを使用)	10分×30日 ＝6時間	患者・顧客の同意を得る。	患者とコミュニケーション能力の向上を図る。患者に求められる薬剤師を知る。
1～10週	研究課題	実習開始時に課題・テーマ(疾病等)を決め、実習期間に実際の患者・処方内容を通して調査・研究を行う。 (11Wのプレゼンで発表)	薬局	指導薬剤師	研究課題	随時	テーマを持つことで、疾病・処方内容を通じて患者にも興味を持って実習を進める。	テーマを決めて学習をしよう！(テーマは、薬局にあわせ、なるべく処方内容や実際に患者をみれるテーマとする。)
1～10週	インシデント事例集	実習初期より自分の行った調剤等でのインシデント・ヒヤリハット事例を収集・分析し、調剤過誤対策・意識の重要性を感じる。日常業務に慣れてきてからの内容の変化を感じる。 (11Wのプレゼンで収集・分析結果・対策発表)	薬局	指導薬剤師	インシデント報告書	随時		自分のミスをすべて集めて考えてみる。実習が進み、薬局になれるてからの、ミスの変化を感じてみよう！
1～10週	様々な薬局を見てみよう	エリア内の様々な形態の協力薬局で見学・実習する事で、様々な分野で活躍している薬剤師と話し、薬局ごとの違いや特徴を感じる。 (11Wの最終プレゼンで体感した事を発表)	協力薬局	指導薬剤師 協力薬局薬剤師	協力薬局作成資料	90分×6回 ＝9時間		薬剤師の様々な職能を体感する。薬局ごとの業務内容の違い・患者層の違いなども体験する。
1～10週	外部施設見学・実習	見学・実習により薬剤師の職域の広さ・職能を体感する。 (レポート提出、6Wの中間プレゼンテーション・11Wの最終プレゼンで結果発表)	エリア内卸 製薬会社 検査センター 介護施設	指導薬剤師 支部薬剤師 外部施設担当者 等	外部施設作成資料	3時間×5回 ＝15時間		地域で活躍する薬剤師を実際に見てみよう！実際の介護の現場を見てみよう！

長野県わくわく実習（ぜひ体験してほしい実習）モデル方略

平成21年9月作成

時期	項目	学習方法	場所	人的資源	物的資源	時間	患者、顧客との関わり	備考
2～11週	地区勉強会・生涯教育講座への参加	各支部・エリアで開催している勉強会・生涯教育講座に参加し、最新の医学知見及び新薬などについて学ぶ。	薬剤師会館等	指導薬剤師	各勉強会資料	90分×2回 ＝3時間		時間外(実習終了後および土曜日など)
5週	ディスプレイ・ポップ作成	健康食品・季節商品・禁煙などのディスプレイ・ポップを作成し、店内に掲示する。	薬局	指導薬剤師	各メーカーパンフレット等	2時間	患者アンケート実施時、自分の作成したものを患者に評価してもらう。	実際にディスプレイを作ってみよう!
6週	中間プレゼンテーション	支部・エリア単位で、「服薬体験実習」、「患者アンケート」、「前半の外部施設実習」、「5週間実習を終えての感想」などについて、発表する。	薬剤師会館等	指導薬剤師 支部薬剤師 薬局職員等	パワーポイント資料	発表(20分) 質疑応答(10分)		時間外(実習終了後および土曜日等)
6週	中間アンケート	実習5週間を終えて(アンケート作成)	薬局	指導薬剤師	中間アンケート用紙(薬剤師会で用意)	20分		前半を終えての感想、後半の実習に望む事。
6週	待合室から見てみよう(中間)	待合室に患者と一緒に座り、改めて薬剤師側から見た薬局と患者目線から見た薬局の違い、患者の気持ちを感じる。(レポート提出)	薬局	指導薬剤師		1時間(ピーク時)	患者と一緒に座り、目線・気持ちを感じる。	一通り実習「知る・見る」が終わったところで実施する。
11週	ポストアンケート	実習を終えて(アンケート作成)	薬局	指導薬剤師	ポストアンケート用紙(薬剤師会で用意)	20分		実習を終了して、何をできたか。何を感じたか。さらにやりたかった事等。
11週	最終プレゼンテーション	支部・エリア単位で、「インシデント事例集」、「研究課題」、「協力薬局での実習で学んだ事」、「後半の外部施設実習」、「実習を終えての感想」などについて、発表する。	薬剤師会館等	指導薬剤師 支部薬剤師 薬局職員等	パワーポイント資料	発表(20分) 質疑応答(10分)		時間外(実習終了後および土曜日など) 実習最後の集大成として大々的に行う。
1～10週	【オプション】 ハナさんから学ぼう! (詳細は検討中)	第1回実務実習のためのアドバンスワークショップin長野報告書「ハナさんのかかりつけ薬局になってみよう!」の実施	薬局 患者宅 介護施設 医療機関等	指導薬剤師 医師 看護師 ケアマネジャー (介護担当者) 患者 患者家族		コアカリの中の関連項目に組み込む	5週目までは、ハナさんという仮想患者を設定し、「かかりつけ薬剤師になるためには・・・」ということシミュレートしながら考えていく。6週以降は、承諾の得られた一人の患者に対してかかりつけ薬剤師として関わり、体験することにより学ぶ。	

長野県薬局実務実習モデルスケジュール「(4)カウンターで学ぶ」モデル方略

平成22年1月作成

時期	LS	到達目標	学習方法	場所	人的資源	物的資源	時間	患者・顧客との関わり	備考
1週	401	患者・顧客に対して適切な態度で接する。(態度)	挨拶・言葉使い・コミュニケーションのポイントについて 考える 。	薬局 薬剤師会館 等	指導薬剤師 支部受入担当者	接遇マニュアル 対面話法例集	30分		
			コミュニケーショントレーニングを行う。 (ロールプレイ)	薬局	指導薬剤師	薬学生実務実習指導 の手引きP98	15×4日 =60分		毎日、朝礼などで、昨日 印象に残ったことなどを 1分位で話す。
1～5週	わくわく	患者・顧客に対して適切な態度で接する。(態度)	「患者アンケート」を通じ、患者・顧客とのコミュニケーションを 体験 する。	薬局	指導薬剤師	患者アンケート用紙	随時	患者・顧客にアンケート を行う。	
	401	患者・顧客に対して適切な態度で接する。(態度)	指導薬剤師による患者・顧客対応をできるだけ 見学 する。	薬局	指導薬剤師	接遇マニュアル 対面話法例集	随時	患者・顧客に見学の同意を得る。	気がついたことを随時メモし、まとめておく。
	402	疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度)	指導薬剤師による患者・顧客へのアドバイスをできるだけ 見学 する。	薬局	指導薬剤師		随時	患者・顧客に見学の同意を得る。	アドバイスのポイント・気がついたことなどをメモしまとめておく。
	403	医師への受診勧告を適切に行うことができる。(技能・態度)	指導薬剤師の患者・顧客への対応の中で受診勧告する様子をできるだけ 見学 する。	薬局	指導薬剤師		随時	患者・顧客に見学の同意を得る。	アドバイスのポイント・気がついたことなどをメモしまとめておく。
	404	セルフメディケーションのための一般医薬品、医療機器、健康食品などを適切に選択できる。(技能)	一般用医薬品・医療機器・健康食品などの販売をできるだけ 見学 し、それぞれの用途や選択基準について学ぶ。	薬局 協力薬局	指導薬剤師 協力薬局薬剤師	インターネット 添付文書集 等	随時	患者・顧客に見学の同意を得る。	気がついたことをメモしまとめる。
1～11週	401	患者・顧客に対して適切な態度で接する。(態度)	毎朝、医療人にふさわしい身だしなみをしているか 自己チェック し、顧客・患者と接する。	薬局 自宅		接遇マニュアル	5分×55日 =6時間35分	患者・顧客にアンケート 時に印象を聞く。	実習記録に毎日チェック する。
			来局者・薬局職員・業者などに積極的に声かけをし、挨拶・言葉使いを意識して コミュニケーション を取る。	薬局 薬局外	指導薬剤師 患者・顧客 業者等	接遇マニュアル	随時		
1・6週	わくわく	疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度)	「待合室から見てみよう」の時に、患者目線から相談しやすいような薬局内の雰囲気(声かけ・掲示・プライバシーなど)大切であることを 感じる 。	薬局	指導薬剤師 協力薬局薬剤師		30分×2 =60分		感じたことを実習記録の まとめる。
1・6・11週	401	患者・顧客に対して適切な態度で接する。(態度)	患者アンケートや受付など接客を通じて、自分の経時変化を見つめ直し 実習記録に記載 する。	薬局	指導薬剤師	実習記録 等	10分×3回 =30分		
1・11週	401	かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う。(態度)	「社会における薬剤師の役割～自分がめざす薬剤師像～」について400～800字程度で レポート を書く。	薬局	指導薬剤師	実習記録 等	30分×2		実習の始めと終わりでの意識の変化を確認する。

長野県薬局実務実習モデルスケジュール「(4)カウンターで学ぶ」モデル方略

平成22年1月作成

時期	LS	到達目標	学習方法	場所	人的資源	物的資源	時間	患者・顧客との関わり	備考
3～4週	402	疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度)	患者・顧客から情報収集する事項や状況に応じた対応・アドバイスの必要性について 考える 。(説明)	薬局	指導薬剤師	対面話法例集 一般用医薬品販売の手引 健康日本21テキスト	30分		
			疾病予防・健康管理についてのアドバイスが必要な事例を検討し、どうの様にアドバイスすればよいか考える。いくつかの例について シナリオを作る 。	薬局	指導薬剤師	対面話法例集 わかりやすいテキスト CASE・事例資料 等	45分×2 =90分		ロールプレイで試し、指導薬剤師と内容の評価について話し合う。
	403	医師への受診勧告を適切に行うことができる。(技能・態度)	受診勧告の必要性について考える。(指導薬剤師と 討議 する。)	薬局	指導薬剤師	一般用医薬品販売の手引等	15分		ひとつの事例を取り上げて考えてみる。
			患者に受診勧告する必要がある代表的な疾患・症状の事例を調べ、いくつかの例について シナリオを作る 。	薬局	指導薬剤師	対面話法例集 事例集資料 OTC書籍 等	45分×2 =90分		ロールプレイで試し、指導薬剤師と内容の評価について話し合う。
3～4週	404	セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療機器、健康食品などを適切に選択できる。(技能)	国民にセルフメディケーションを支援するために、薬局薬剤師が果たす役割について 考える 。(説明)	薬局	指導薬剤師	一般用医薬品販売の手引	90分		リスク分類・販売者責任の明確化・情報提供の必要性などについてレポートのまとめる
			セルフメディケーションに関する実習薬局アイテムについて整理し、代表的なOTCや薬局で取り扱いのあるOTC等の 一覧表を作る 。	薬局	指導薬剤師	一般用医薬品集 薬局で販売している商品 一般用医薬品添付文書 医療機器取扱説明書 等	90分		
			医療用医薬品と一般用医薬品との相互作用について代表的な事例を 調べる 。	薬局	指導薬剤師	対面話法例示集 事例集資料 OTC書籍 等	90分		
			顧客の症状や背景を考慮し、一般用医薬品などの選択基準についての事例を検討し、いくつかの例について シナリオを作る 。	薬局 協力薬局	指導薬剤師 協力薬局薬剤師	対面話法例示集 事例集資料 OTC書籍 等	45分×2 =90分		いくつかの事例について、対応話法を作成してみる。
4週	402	疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度)	事例・シナリオに基いて ロールプレイ を行う。	薬局	指導薬剤師	対面話法例示集 事例集資料 OTC書籍対応話法作成資料 わかりやすいテキスト CASE 等	15分×5日 =75分		
	403						15分×5日 =75分		
	404						15分×5日 =75分		
	405	顧客からのモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。(技能・態度)	一般用医薬品によって起りうる重篤な副作用や有害事例の報告をまとめ、薬剤師による副作用モニタリングの重要性を 感じる 。	薬局	指導薬剤師	モニタリング事例 対面話法例示	90分		
			医薬品被害救済制度について 調べる 。	薬局	指導薬剤師	医薬品被害救済制度資料 (HP)	45分		
			副作用が発生した場合の対応策についていくつかの事例を用いて 説明する 。	薬局	指導薬剤師	モニタリング事例集 対面話法例示集 医薬品安全情報報告書 等	45分		

長野県薬局実務実習モデルスケジュール「(4)カウンターで学ぶ」モデル方略

平成22年1月作成

時期	LS	到達目標	学習方法	場所	人的資源	物的資源	時間	患者・顧客との関わり	備考
5週	403	医師への受診勧告を適切に行うことができる。(技能・態度)	事例に基づいて医師への紹介状を作成する。	薬局	指導薬剤師	患者紹介状 対面話法例集 一般用医薬品販売の手引 事例集資料 等	30分		
5～11週	406	顧客対応実習 ●顧客が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度) ●顧客が必要とする情報を的確に把握する。(技能・態度) ●顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる。(技能・態度) ●入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)	P401～P405で行った実習を基に ①患者・顧客と コミュニケーション を取る。 ②指導薬剤師の顧客対応を 見学 する。 ③実際の 事例検討 を行う。 ④色々な事例について シナリオを作成 する。 ⑤指導薬剤師とともに ロールプレイ を行う。 ⑥指導薬剤師と一緒に実際に 顧客対応 を行う。 P321服薬指導入門実習・P322服薬指導実践実習と並行して実習を進め、到達度に合わせ①～⑥について繰り返し行う。	薬局 協力薬局	指導薬剤師	接遇マニュアル 対面話法例集 薬学生実務実習指導の手引き(P98) 商品・OTC 添付文書 説明書 等	150分×30日 =75時間 (少なくとも延べ50人と顧客対応できるように工夫する。)	顧客の同意を得て、実際に対応する。	体験したひとつひとつの事例について、検討を加え、気づいたこと・調べたこと・検討したことなどをまとめておく。
	407	健康管理実習 ●疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度) ●セルフメディケーションのための一般用医薬品・医療用具などを適切に選択・供給できる。(技能) ●医師への受診勧告を適切に行うことができる。(技能・態度) ●患者・顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。	P402～P405で行った実習を基に ①指導薬剤師の顧客対応を見学する。 ②実際の 事例検討 を行う。 ③ シナリオ作成 を行う。 ④指導薬剤師とともに ロールプレイ を行う。 ⑤指導薬剤師と一緒に実際に 顧客対応 を行う。 到達度に合わせて、不十分な部分は、P402～P405に戻って①～⑤について繰り返し実習を行う。	薬局 協力薬局	指導薬剤師	接遇マニュアル 対面話法例集 薬学生実務実習指導の手引き(P99) 商品・OTC 添付文書 説明書 一般用医薬品販売の手引き 健康日本21テキスト わかりやすいテキストCASE 事例集資料 モニタリング事例 医薬品被害救済制度資料 医薬品安全情報報告書 患者紹介状 OTC関連書籍 等		顧客の同意を得て、実際に対応する。	体験したひとつひとつの事例について、検討を加え、気づいたこと・調べたこと・検討したことなどをまとめておく。
6週	401	かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う。(態度)	かかりつけ薬局・薬剤師の役割について中間時点で感じたことを 討議 する。(SGD)	薬剤師会館 等	指導薬剤師 支部受入れ担当者	実習記録 等	90分		SGDにより感じたことをレポートにまとめる